

## 「ごみゼロ社会を築くために！」

9月5日(火)勝間ふれあいセンター学級(公開講座)を開催しました。今回は、高齢者・女性学級生の他一般の参加者を含め55名がこの講座に参加しました。講師に山口県環境保全活動推進アドバイザー 久保田 后子 先生(山口県議会議員・宇部短期大学非常勤講師)を迎え「ごみゼロ社会を築くための行政、市民、事業者の役割について」のご講演をいただきました。講演に先立ち住民生活課 有馬課長より熊毛町のゴミ問題の現状を資料「数字」を交えて説明していただき、参加者のゴミ問題に対する認識をさらに高めました。

久保田先生の講演を楽しみにされていた方も多く、最後まで熱心に講演に聞き入っておられました。公開講座(講演)の内容を報告します。



### 1. ゴミ問題発生メカニズム

大量発生・販売・消費・廃棄型の経済社会システム・使い捨てライフスタイル

① 処理能力を上回るゴミの量と質の発生 ② 埋め立て処分地の不足、処理コストの増大、地域の環境汚染問題、ダイオキシン等有害物質の発生による健康被害の恐れ ③ 地球規模の環境問題の醸成

・20年以上前から問題は発生していた。その信号(問題)を見落としていた→環境問題(方向を定めるのに時間がかかった)

### 2. ゴミ問題への対応

末端での減量化対応と施設対応中心(対症療法・緊急避難的対応)→発生源(生産・販売段階)での規制

・ゴミの減量化・資源化・適性処理

・4つのR(Refuse ことわる, Reduce へらす, Reuse 再使用, Recycle 再生使用)

- ・日本社会(ゴージャスな生活)→国際社会からの批判→日本も循環型社会に必ず変わる
- ・便利さ、豊かさを捨てて我慢・辛抱→環境問題を考える時「私がやらないで誰がやる」

### 3. 行政・事業者・市民の役割

各主体が責任を自覚して応分の参加と負担をする →三者の連携

前提条件:十分な情報と意思決定への参加のシステム

必要条件:環境学習

エコロジカルな視点=生態系とのバランス

グローバルな視点=身の回りの環境から常に地球環境への連続を考えさせるような視点、地球市民的な活動の広がり

- (1) 行政:循環型社会のための地域政策の展開  
行政自らの率先行動計画の策定・実施  
環境教育・環境学習の推進





(2) 事業者：環境に配慮した事業活動

環境負荷の少ない商品開発／製造／販売、廃棄物の責任  
環境管理・監査の実施、ISO14001 取得  
製品のライフサイクルの環境影響評価の導入 (LCA)  
エコマークなどの環境ラベルの導入  
廃棄物再利用・ゼロエミッションのシステム構築

(3) 市民：地域環境への気づき→認識→行動→住民参加のまちづくり

環境にやさしいライフスタイルの確立／グリーンコンシューマー運動の実践

- ・地球誕生から 46 億年経過しているが、この近年 (短い時間) に生態系を破壊してきた。今からでも環境問題に取り組めば何とかなる。
- ・行政 (政治) は、ゴミを減らすと徳になる社会を作ることが大切。(ドイツでは環境問題にいち早く取り組んでいる)
- ・地球人口 60 億人を守ろう！→ごみゼロに向けて一人ひとりががんばろう！ (辛抱しよう！)

### 生活用品の環境にやさしい買い方・使い方

私たちは毎日ものを生産し消費することで生活を営んでいます。身のまわりにはもう一度考え直してみたいことが沢山あるはず。私たち一人ひとりがものとの関わりを考え、生活にちょっとした気配りをするだけで、環境保全に役立ち地球を守ることへつながっていくのです。(グリーンコンシューマー運動)

- ① 捨てる前 (修理・部品交換で長持ち)・買う前 (本当に必要なものか?) にもう一度考える
- ② 使い捨て商品はなるべく買わない (ビールなどは缶よりもびんで、スーパーには、買い物かごを)
- ③ 詰め替え商品は中身だけ買う (容器は捨てずに中身を補充)
- ④ チラシや包装紙などはメモ用紙に
- ⑤ 過剰包装は断る (シンプルに)
- ⑥ エコマークの表示など環境に配慮した商品を (成分表示などに注意しましょう)
- ⑦ 買ったものは使い切る (無駄に使わないようにしましょう)
- ⑧ スプレー製品はノンフロンのもを (フロンガスはオゾン層を破壊します)
- ⑨ 不要品はフリーマーケットなどへ (有効利用をしましょう)
- ⑩ ごみはリサイクルを考えて (分別収集の徹底・集団回収などの地域活動に積極的な参加を)

### ふれあいめーる編集後記

今回の講演内容は、私たちを取り巻く環境問題は、生活排水による河川等の水質汚濁や自動車等による騒音、廃棄物などの都市・生活型公害から、地球温暖化や酸性雨などの地球環境問題まで、その内容は広範囲にわたっていました。

これらの解決のためには、私たち一人ひとりが、大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会経済システムやライフスタイルを見直し、環境への負荷の少ない循環型の社会に変えていかなければならないことを

心の問題 (日本人の心) として “がまん・しんぼう” 『しんぼう しなければいけない。』と話されていたことは、強く印象に残りました。あなたも、便利さ・豊かさに背を向けて、ごみゼロ社会に向けてがんばってみませんか!

地域の情報・ふれあいめーるの感想等ありましたら E メールなどでご意見をお聞かせ下さい。

E - mail [kafure@town.kumage.yamaguchi.jp](mailto:kafure@town.kumage.yamaguchi.jp)